

1 学校保健の動向

多くの支部が、県養護教員研究協議会の研究主題「児童生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援」を受けて、研修に取り組んでいる。特に、中学校区ごとに授業公開や実践発表が行われ、ワークショップ型の研修スタイルで多くの学校が情報を交換し、実態を分析して研修の成果を上げている。

研修内容で多かったのは、**生活習慣の改善、健康相談の在り方、保健指導や保健体育の授業における養護教諭の指導技術の向上**についてである。

生活習慣の改善では、「生活習慣を改善させるための動機付け」や「脳の発達と睡眠との関係」、「肥満体質改善のための食の教育」や「アウトメディアデーを設ける」など、運動・食事・睡眠のよりよい生活習慣の形成に向けて多くの講演やグループ討議が行われた。新潟市では、児童生徒の意識の変化に注目してキーワードとして整理している。上越市では、「生活習慣予防教育資料集」を作成している。いずれの地域でも、検診結果などのデータをもとにこれまでの指導を見直すことで、児童生徒が生活習慣の改善を自分のこととして考えさせ、実行に移せる支援の方策を積極的に研修している。

健康相談の在り方については、主に心因性来室者への支援がテーマとなっている。直接心の不調を訴えてくる場合ばかりではなく、体調の不良から発達段階に応じた心の変化を丁寧に見取り、対応していくために、新発田市・北蒲原郡では「保健室で使える心理療法」、長岡市・三島郡、村上市、阿賀野市では「健康相談に使える認知行動療法」などの講演講義を聴いたり、事例検討を丁寧に行ったりしている。また「心因性来室者の個人記録票」を工夫するなど、発達段階に応じた心の健康相談に積極的に取り組んでいる。

養護教諭の指導技術の向上としては、三条市、佐渡市などでインパクトのある掲示物等の保健資料を作成し、その活用方法を研修している。また、十日町市・中魚沼郡で養護教諭のプレゼンテーション能力の向上を意識し、ワールドカフェ方式によるグループディスカッションなどを取り入れている。また、燕市・西蒲原郡では「分かっているけどできないことを、どうやってその気にさせていくか」という発問の工夫にも取り組んでいる。

2 今後の課題

どの地区の研修においても、児童生徒や保護者が求める援助者でありたいという教師の熱意のもと、児童生徒が本当に必要としている支援ニーズを見極める必要がある。

その中で、法改正や状況変化に応じた新しい知識を取り込み、特別に支援の必要な児童生徒への対応の仕方を身につけるべく、今後も関係機関との連携を図っていくことが求められる。

また、保健管理や保健指導に必要なパソコン技術の習得やデジタルデータの共有化の検討なども視野に入れていきたい。